

<センター等>

別紙2

全学内部質保証委員会の意見書

I 対象となるセンター等

子どものこころの発達研究センター

II 自己点検、外部評価実施時期

令和7年12月（対象：令和元年度～令和6年度（6年間））

III 評価結果

1. 今回の自己点検・評価は適切に実施されたか

適切である

2. 外部評価は適切に実施されたか（外部評価を実施している場合）

概ね適切である

福井大学部局等自己点検・評価及び外部評価実施要項に関連して

・第7条第3項に関して

スケジュールに関する情報等は記載されているが、(2) 各部局等の長，所属教員及び所属学生等に対するヒアリングについてももう少し追記されるべきかと思われる。

3. センター等の設置目的等や活動は本学及びセンター等の目的・目標等に沿ったものであるか

適切である

4. 設置目的等を達成する上で、組織、設備、財務等は適切か

適切である

組織としても十分機能している

5. 活動は本学及びセンター等の目的・目標等の達成に十分に資しているか

資している

6. 活動によって人材育成が図られているか

図られている

7. 内部質保証体制が適切に整備され、機能しているか

おおむね機能している

・内部質保証体制が有効に機能しているか否かについて活動報告書等からは読み取ることができない。その情報を加えてはどうか。

・自己点検評価結果を構成員にフィードバックするシステムが図中に明記頂きたい。

8. 外部評価における意見への対応、又は自己点検・評価での課題への対応は適切か
(要項 別紙3, 別紙4)

適切である

9. その他、特記すべき点・改善を要する点等

(1) 特筆すべき点

研究成果が社会との共創にも結びついており、福井県をはじめとする自治体、教育・医療機関と連携し、年間50件以上の研修会や支援事業を実施し、延べ数千人が参加するなど、地域課題の解決に直結する成果を挙げている点は特記すべき事項である。

(2) 改善を要する点

特にありません。

(3) 改善が望ましい点

センターの実態に即した管理運営体制となるよう、部門長会議の必要性および役割の再検討をお願いしたい。

また、論文数・被引用数等は全学的な課題となっており、数の面での増が望まれる。

10. 上記を踏まえ、センター等の改廃についての意見

(1) 専任教員の配置は妥当か

妥当である

(2) 現状どおり設置していくことは適切か

適切である

研究成果については、組織としての方向性を定め、選択と集中による効果（社会還元までを含めた質と量との掛け算での実績）を期待する。